

# 克己心を育てる

よい環境を作ること

「才能教育」9号（一九四九年）より

鈴木鎮一

我がままは行動によって示されるのでありますが、それはやはり心の命令によるものでありましょう。心を育てることこそ才能教育の最大の仕事だと思います。

ヴァイオリンを与えて、私共は、努力をするという一つ大事な教育を行いつつあるのであります。子供は遊ぶこと以外は、努力する心、己おのれに克かつ心の有無が、教育のスタートとなります。初めは珍しいから喜んでやるヴァイオリンも、毎日訓練を必要とする教育事業に対しては、すぐにいやになります。

倦あく、という心は、心に集中し努力する心がないからであります。子供のこの心のままにしておいたら、一生集中心のない、何をやってもすぐ倦あいて何もやり

遂げない人間となりましょう。

ヴァイオリンをやらせてみても、いいかげんにやり、やがて出来ないからいやがる。そうした上で親の方が根負けしてやめることになる。このような教育は何を子供に育てたのでしょうか。努力もせず、出来ないからと言ってその仕事をやめて、何かまた他のことへ移ることを許したら、その子供は何をやっても努力せず、出来ぬから他のものへという道を必ず歩きましょう。そして幼い時にこの一事を教えたことになり、その子供の一生、大人になつてやる仕事なり職業なりは、努力せず出来ぬままに、これを成し遂げる事は知らないもので、より易しいものを求めて転々として何事にも成功しない人間となると思います。

幼い時に与えた一つの仕事は、子供の一生においての最初の人間の姿となります。

努力する心を育てて下さい。集中する心を育てて下さい。必ず何かをやり遂げる人間になりましょう。ヴァイオリンを以もつて人間をつくる一つの重大な事業だと思つて、親が真剣にやつて下されば、必ず子供の心は

立派に育ちましょう。途中でやめてはいけません。また音楽家になるのではないから、あまり上手にならなくともいい、なんかと思つてはいけません。努力することを教えるのです。

立派に弾けるようになる子供達こそ、他の何をやらせても、立派にやる子供となります。

いくら上手になつても、支障ないではありませんか。アインシュタインやミハエルス先生（註）達が専門家並みに立派に音楽が出来る人であればこそ、あれだけの立派な仕事をやり遂げる人となつていることを、私は偶然ではないと思つてあります。努力する心を育てて下さい。

（註）ミハエルス教授（医学）。ベルリン留学中の鈴木先生に、アインシュタイン博士を紹介。

